第4学年音楽科学習指導案

日 時:令和4年 11月24日 2校時

対象学級: 4年2組 30名

教 室:音楽室

指導者:小原育世

1 題材名

いろいろな音のひびきを感じ取ろう

教材名 音楽づくり 「打楽器の音楽」

器楽 「茶色の小びん」

鑑賞 「メヌエット」「クラリネットポルカ」

2 内容のまとまり

第4学年 A(2)器楽ア,イ(ア)(イ),ウ(ア)(イ)(ウ)

(3)音楽づくり ア (ア) (イ), イ (ア) (イ), ウ (ア) (イ)

B 鑑賞 ア・イ

3 題材の目標

(1) 楽器の音色や旋律の特徴などと曲想との関わりに気付き、楽器の組み合わせや音の重なり方を生かして 音楽をつくる技能や、音色や各パートの音のバランスに気を付けて演奏する技能を身に付けている。

「知識・技能」

(2) 楽器の音色や旋律の特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら味わって聴いたり、楽器の音色を生かした演奏の仕方や、音楽の縦と横の関係などの仕組みを用いた音楽のつくり方について、思いや意図をもったりする。

〔思考・判断・表現〕

(3) 楽器の組み合わせ方や重ね方を工夫して音楽をつくったり、音色やパートの重なりを生かして互いの音を 聴き合って演奏したり、音色や旋律の特徴による曲や演奏のよさなどを感じ取りながら聴いたりする学習 に進んで取り組む。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

4 題材について

- (1) 児童について
 - ア コロナ感染予防のため、普通教室での音楽活動についてたびたび控えてきたものの、11月1日の市 の音楽会に向け、学年全体で表現活動に取り組んできた。
 - イ 4学年鑑賞教材「白鳥」・「堂々たるライオンの行進」の比較聴取では、主な旋律の特徴や、曲想の違いを聴き比べ、気付いたこと、感じ取ったことを話し合ったり、鑑賞文を書いたりしている。
 - **ウ** 旋律の特徴や重なりに関心をもち、進んで表現に取り組む姿勢が育ち始めている。

(2) 題材について

本題材では、音色を中心に音の重なりや音楽の仕組みとのかかわりを取り上げながら、表現と鑑賞の学習を進めていく。特に、材質による音の特徴をとらえて音の組み合わせを工夫して音楽をつくり、その響きの違いを生かして自分なりの発想をもって表現する学習を体験する。

4年生の中心的な合奏教材である「茶色の小びん」では、いろいろな楽器の音が重なる豊かな響きを味わいつつ、パート間の音量のバランスに配慮しながら演奏する活動を通して、互いの音を聴き合って演奏することの喜びを味わうようにする。ここでは、音色に関わる学習の一環として、鉄琴や木琴に使うマレットの選択の工夫にも気付かせていく。

鑑賞では、3学年で金管楽器の音楽に親しんだ学習経験をふまえ、木管楽器がもっている固有の音の美しさを味わって聴く活動を進める。特に、フルート、クラリネットについて、音色のよさ、魅力に気付くことができるように、音を聴き比べたり、演奏の様子を視聴したりできるようにする。

また,ジョイントアップ公開研究会という機会を生かし、中学校(可能であれば、学区。卒業生)の吹奏楽部でフルート、クラリネットに取り組んでいる生徒さんの演奏する映像を収録し、授業の中で児童にその姿を視聴させたい。鍵盤ハーモニカやリコーダーの学習で意識していることが、フルートやクラリネット等の木管楽器、ひいては吹奏楽に親しみ、挑戦する可能性を示したい。

(3) 指導について

ア 本題材における言語活動の特徴等

音楽の言語活動として,これまでの経験や下記のような音楽的用語を使い,自分の気付いたこと, 感じたことを表現できるようにしたい。

活用させたい言葉

音色 旋律 強弱 音の重なり 拍

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等

「主体的な学び」を実現するために、打楽器、リコーダー等の楽器をよく聴きあい、自分たちの気付きをもとに響きを重ねて合奏を作り上げることができるようにする。過程での発言を可視化する。

「対話的な学び」を実現するために、電子媒体を利用し、課題把握から対話形式で進められるように授業構成をする。また、学びに連続性を持たせ、前時の学習内容を視覚的に共有する。

「深い学び」を実現するために、木管楽器の鑑賞の学習において、聴覚を優先としながら、「図形楽譜」 「実際の演奏場面」等の視覚的要素を段階的に取り入れ、気付きを促す。

ウ 研究の手立てとの関わり

電子黒板に教科書を撮影し、作成したパワーポイントを活用して、学びの過程が視覚的にわかるように 手立てを組んでいく。児童の授業のふりかえりを前時想起に用いて、意欲向上を図る。複数の教材曲の中 で活用させたい用語をくり返し取り上げ、音楽的な言葉の定着を図る。

5 題材の評価規準

知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 ①打楽器の音色や組み合わせの ①音色, 強弱, 音楽の縦と横との ①打楽器の音の響きやそれらの組 特徴、構成の仕方が生み出す 関係などを聴き取り、それら み合わせの特徴を生かし、即興 面白さに気付き, 即興的に音 の働きが生み出すよさや面白 的に音で表現する学習に進んで さを感じ取りながら, いろい を選択し、組み合わせて表現 取り組もうとしている。 する技能や、音楽の縦と横と ろな音の組み合わせを即興的 の関係など音楽の仕組みを用 に表現し, 音を音楽へと構成 いて音楽をつくる技能を身に することを通し、まとまりを 付けて音楽をつくっている。 意識した音楽作りについて思 ②音色や響きに気を付けて、旋 いや意図をもっている。 律楽器や打楽器を演奏する技 ②楽器の音色の特徴や音の重な ②楽器の音色を生かして演奏した りを聴き取り、それらの働き 能や, 互いの楽器の音や副次 り, 互いの楽器の音や副次的な 的な旋律,伴奏を聴いて,音を が生み出すよさや面白さを感 旋律,伴奏を聴いたりして,音を 合わせて演奏する技能を身に じ取りながら, 曲の特徴を捉 合わせて演奏する学習に進んで

えた表現を工夫し、どのよう	取り組もうとしている。
に演奏するかについて思いや	
意図をもっている。	
③楽器の音色や旋律の特徴と曲	
想との関わりについて気付い	③木管楽器の音色や響きに興味・
たことを生かして、曲や演奏	関心をもち、曲や演奏のよさな
のよさなどを見いだし, 曲全	どを味わって聴く学習に取り組
	に演奏するかについて思いや 意図をもっている。 ③楽器の音色や旋律の特徴と曲 想との関わりについて気付い たことを生かして、曲や演奏

体を味わって聴いている。 もうとしている。

6 指導と評価の計画(8時間)

1 「打楽器の音楽」音の特徴を生かして音楽をつくる。(音色・強弱・音の重なり、反復、音楽の縦の関係)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規	見準・評価	西方法
 ○関係) ・4種類の図形カードを見て、楽器でどのように音を出して表現、素材によって異なる種類の音がすることに気付くようにする。 ・ すればよいか試す。 ・ 大達の発表を聴き、自分の楽器ならどのように音を出すのかを考えられるようにする。 ・ 力ードを2枚以上使って即興的に音で表現する。 ・ 打楽器の音の組み合わせ・音の重ね方、反復などを生かして、三人一組で音楽をつくる。 ・ 音色を考えて、使う楽器を決める。 ・ カードを並べながら、音の重ね方、反復などを生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かした音楽をつくる。 ・ 直を生かすという観点から組み合わせを音を出すのかを確認し、組合わせを考えて、楽器を選ぶようにする。 ・ がななどを生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、カードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・ 「中」の部分を確認し、始め方や ・ 中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し、どのようにはじめ、 				知・技	思	主
 ・4種類の図形カードを見て、楽器でどのように音を出して表現 すればよいか試す。 ・工夫した表現を紹介しあう。 ・カードを2枚以上使って即興的に音で表現する。 ・打楽器の音の組み合わせ・音の重ね方、反復などを生かして、三人一組で音楽をつくる。 ・音色を考えて、使う楽器を決める。 ・カードを並べながら、音の重ね方や、反復などを生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を確認し、とのようにはじめ、 ・「中」の部分を確認し、始め方や・中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し、どのようにはじめ、 	1	「打楽器の音楽」音の特徴を生かして	て音楽をつくる。(音色・強弱・音の重な	こり, 反復	1,音楽の	縦と横
### ### #############################	の胃	曷係)				
 すればよいか試す。 ・工夫した表現を紹介しあう。 ・力ードを2枚以上使って即興的に音で表現する。 ・打楽器の音の組み合わせ・音の重ね方,反復などを生かして、三人一組で音楽をつくる。 ・音色を考えて,使う楽器を決める。 ・カードを並べながら,音の重ね方々、反復などを生かし、グループで「中」の部分を生かした音楽をつくる。 ・力ードを並べながら、音の重ね方や、反復などを生かし、グループで「中」の部分を生かした音楽をつくる。 ・近べたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・並べたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や3 終わり方を工夫して、グループののかを確認し、どのようにはじめ、 		・4種類の図形カードを見て、楽	・手で持てる小物打楽器を配り,			
時 ・工夫した表現を紹介しあう。 ・友達の発表を聴き、自分の楽器ならとのように音を出すのかを考えられるようにする。 ・力ードを2枚以上使って即興的に音で表現する。 ・打楽器の音の組み合わせ・音の重ね方、反復などを生かして、三人一組で音楽をつくる。 ・音色を考えて、使う楽器を決める。 ・カードを並べながら、音の重ね方や、反復などを生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生からまたまたして、グループの部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し、どのようにはじめ、 ・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し、どのようにはじめ、		器でどのように音を出して表現	素材によって異なる種類の音がす			
・カードを2枚以上使って即興的に音で表現する。 どのように音を出すのかを考えられるようにする。 ICT (共有化・焦点化) 四枚の図形楽譜の表示 ・打楽器の音の組み合わせ・音の重ね方, 反復などを生かして、三人一組で音楽をつくる。 ・トライアングルは長い音も短い音も出せる。のりでです。 ・音色を考えて、使う楽器を決める。 ・かードを並べながら、音の重ね方ができるようにする。 ・カードを並べながら、音の重ね方や、反復などを生かし、グループで「中」の部分を生かし、グループで「中」の部分を生かした音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・近れたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し、どのようにはじめ、	1	すればよいか試す。	ることに気付くようにする。			
 に音で表現する。 ・打楽器の音の組み合わせ・音の 重ね方、反復などを生かして、 三人一組で音楽をつくる。 ・音色を考えて、使う楽器を決める。 ・カードを並べながら、音の重ね方や、反復などを生かし、 グループで「中」の部分を生かし、 した音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・並べたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・がでたカードを音で試しながら、音色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方やのかを確認し、どのようにはじめ。 	時	・工夫した表現を紹介しあう。	・友達の発表を聴き,自分の楽器なら			
ICT (共有化・焦点化) 四枚の図形楽譜の表示		・カードを2枚以上使って即興的	どのように音を出すのかを考えら			
四枚の図形楽譜の表示 ・打楽器の音の組み合わせ・音の 重ね方、反復などを生かして、 こ人一組で音楽をつくる。 時・音色を考えて、使う楽器を決め る。 ・カードを並べながら、音の重ね 方や、反復などを生かし、 グループで「中」の部分を生かし、 した音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・・並べたカードを音で試しながら、音を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。		に音で表現する。	れるようにする。			
・打楽器の音の組み合わせ・音の			ICT (共有化・焦点化)			
 重ね方、反復などを生かして、			四枚の図形楽譜の表示			
2 三人一組で音楽をつくる。 ・音色を考えて、使う楽器を決め る。 ・カードを並べながら、音の重ね 方や、反復などを生かし、 グループで「中」の部分を生か した音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音 色を生かすという観点から組み合 わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や 終わり方を工夫して、グループの のかを確認し、どのようにはじめ、 この特徴を確認し、独合わせを考え て楽器を選ぶようにする。 ・様々な重ね方ができるよう、カード を多く用意してグループに配布する。 ・並べたカードを音で試しながら、音 色を生かすという観点から組み合 わせを工夫できるようにする。		・打楽器の音の組み合わせ・音の	・トライアングルは長い音も短い音			
時 ・音色を考えて、使う楽器を決め		重ね方、反復などを生かして、	も出せる,ウッドブロックは高さの			
る。 ・カードを並べながら、音の重ね ・様々な重ね方ができるよう、カード	2	三人一組で音楽をつくる。	違う音が出せるといった楽器の音			
 ・カードを並べながら、音の重ね 方や、反復などを生かし、 を多く用意してグループに配布する。 した音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音 色を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっているのかを確認し、どのようにはじめ、 のかを確認し、どのようにはじめ、 のかを確認し、どのようにはじめ、 のかを確認し、どのようにはじめ、 のかを確認し、どのようにはじめ、 のかを確認し、どのようにはじめ、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	時	・音色を考えて、使う楽器を決め	色の特徴を確認し,組合わせを考え			
カや、反復などを生かし、 を多く用意してグループに配布す る。 した音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音 色を生かすという観点から組み合 わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっている のかを確認し、どのようにはじめ、		る。	て楽器を選ぶようにする。			<u>(1)</u>
グループで「中」の部分を生か る。 した音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音 色を生かすという観点から組み合 わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっている のかを確認し、どのようにはじめ、		カードを並べながら、音の重ね	様々な重ね方ができるよう,カード			①行動観察・
した音楽をつくる。 ・並べたカードを音で試しながら、音 色を生かすという観点から組み合 わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっている のかを確認し、どのようにはじめ、		方や、反復などを生かし、	を多く用意してグループに配布す			観
●を生かすという観点から組み合わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっている のかを確認し、どのようにはじめ、		グループで「中」の部分を生か	る。			
わせを工夫できるようにする。 ・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっている のかを確認し、どのようにはじめ、		した音楽をつくる。	・並べたカードを音で試しながら、音			演奏聴取
・「中」の部分を確認し、始め方や ・中間部分の音楽がどうなっている 3 終わり方を工夫して、グループの のかを確認し、どのようにはじめ、			色を生かすという観点から組み合			聴
3 終わり方を工夫して、グループの のかを確認し、どのようにはじめ、			わせを工夫できるようにする。			収
3 終わり方を工夫して、グループの 音楽をつくる。 のかを確認し、どのようにはじめ、 どのように終わりたいのかを話し合 い、それに合うカードを選択できる ようにする。 ① 聴取・発言・発言・発言・		・「中」の部分を確認し、始め方や	・中間部分の音楽がどうなっている			
音楽をつくる。 どのように終わりたいのかを話し合い、それに合うカードを選択できるい、それに合うカードを選択できるい。 ① 聴取 ・ 動観察・ 発言・ 発言・ 発言・ 発言・ 発言・	3	終わり方を工夫して, グループの	のかを確認し、どのようにはじめ、			
時 い,それに合うカードを選択できる 職 ・グループごとにつくった音楽を 発表しあい,互いの表現のよさを ようにする。 発 言 ・ 発言		音楽をつくる。	どのように終わりたいのかを話し合	1)行	
・グループごとにつくった音楽を 発表しあい, 互いの表現のよさを ようにする。 ・ 発 言 ・ 発 言 ・ 治 言	時		い,それに合うカードを選択できる	-	期観	
発表しあい, 互いの表現のよさを ICT (共有化・焦点化)		グループごとにつくった音楽を	ようにする。	•	察・	
		発表しあい、互いの表現のよさを	ICT(共有化・焦点化)	言	発言	
認め合う。		認め合う。		記	· ·	
				述) 奏	
					! 取	

	「茶色の小びん」楽器の音色の特徴や	で演奏の仕方について考え、パートの役割	割を感じ	て演奏する	ことが
でき	できる。(音色・旋律・音の重なり・拍)				
	・指導用CDを聴き,曲の感じをつ	・楽譜を見ながら範奏を聴き、合奏			
4	かみ、主な旋律を階名唱する。	の学習への見通しをもてるように			
時	・主な旋律を鍵盤ハーモニカで演	する。			
	奏し, 旋律の特徴に合う息の使	ICT (視覚化・共有化)			
	い方を工夫する。	楽譜の表示			
	・副次的な旋律をリコーダーで演	曲の構造の確認			
	奏し、主な旋律と合わせる。				
	・#(シャープ)について知る。	・リズムを確認したり, 階名唱をした			
5	・主な旋律, 副次的な旋律, 和音,	りして楽譜に慣れるようにする。			
時	低音の各パートを確認する。	・マレットの持ち方や打つ位置、タン			
	・4つのパートの担当を決め、拍	ギングや音の高さなどを確認する。			
	にのり、合奏する。				
	各パートの音量のバランスや響	・数種類のマレットで演奏し, その音			
6	きに気を付けて演奏する。	色の違いを学級全体で確認する。			
時	・自分が担当する楽器の旋律と役	・聴いている児童は、主な旋律が聞こ			
	割を確認する。	えるかどうかを確認し、改善策を考	演	2	② 観 察 •
	・互いの表現を聴きあい,工夫の	えられるようにする。	(2)演奏聴取	②発言内容	察・
	よい点について意見交換する。		取	容	記述
					処
	3 フルートとクラリネットの音色を味わい,旋律やリズムの特徴から曲想の違いを感じ取る。				
[3]	ノルートとグフリネットの音色を味	わい,旋律やリスムの特徴から曲想の遺	を感し	じ取る。	
3	ノルートとクラリネットの音色を味	わい,旋律やリスムの特徴から曲想の頃		ご取る。 ,旋律〕 _	
3	・木管楽器について知り、音色に				
7					T
	・木管楽器について知り、音色に	ICT (共有化・焦点化)			
7	・木管楽器について知り、音色に親しむ。	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴い			Ī
7	・木管楽器について知り、音色に 親しむ。・それぞれの楽器の名称を確かめ	[CT (共有化・焦点化)・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴した			
7	・木管楽器について知り、音色に 親しむ。・それぞれの楽器の名称を確かめ る。	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色			
7	・木管楽器について知り、音色に親しむ。・それぞれの楽器の名称を確かめる。・「メヌエット」の主な旋律の動き	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。			
7	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞり			
7	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付い 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きで			
7	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりす			
7	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりすることを確認する。			
7	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し、前奏+A部分 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりったり細かい動きであったりすることを確認する。・2つの曲のそれぞれの特徴や違い			
7	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し、前奏+A部分を聴き、感じたことや気付いたことを続けいたことを気付いたことを気付いたこ 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりったり細かい動きであったりすることを確認する。・2つの曲のそれぞれの特徴や違い			
7 時	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し、前奏+A部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりすることを確認する。・2つの曲のそれぞれの特徴や違いについて、発言しあう。	音色		3)
7 時	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し、前奏+A部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 フルートとクラリネットの音色の 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりすることを確認する。 ・2つの曲のそれぞれの特徴や違いについて、発言しあう。	音色	,旋律〕	③ 行 和
7 時	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し、前奏+A部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 フルートとクラリネットの音色のよさや旋律の特徴を感じ取って聴 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったり つとを確認する。・2つの曲のそれぞれの特徴や違いについて、発言しあう。 ・フルート、クラリネットに取り組む姿、基本の演奏法を視聴する。	音 3聴取・	,旋律〕	③行動観帘
7 時 8 時	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し、前奏+A部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 フルートとクラリネットの音色のよさや旋律の特徴を感じ取って聴 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりすることを確認する。・2つの曲のそれぞれの特徴や違いについて、発言しあう。 ・フルート、クラリネットに取り組む姿、基本の演奏法を視聴する。・「音色」のよさと、「楽曲の旋律の特	音色		③行動観察
7 時 8 時 本	 ・木管楽器について知り、音色に親しむ。 ・それぞれの楽器の名称を確かめる。 ・「メヌエット」の主な旋律の動きを確認し、フルート独奏のA部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・「クラリネットポルカ」の主な旋律の動きを確認し、前奏+A部分を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 フルートとクラリネットの音色のよさや旋律の特徴を感じ取って聴 	ICT (共有化・焦点化) ・写真と説明を見ながら音楽を聴いたり、音楽授業支援 DVD を視聴したりして、それぞれの楽器やその音色への関心を高められるようにする。 ・主な旋律の図形楽譜を指でなぞりながら聴き、旋律が滑らかな動きであったり細かい動きであったりすることを確認する。 ・2つの曲のそれぞれの特徴や違いについて、発言しあう。 ・フルート、クラリネットに取り組む姿、基本の演奏法を視聴する。 ・「音色」のよさと、「楽曲の旋律の特徴」の区別と、その関わり合いにつ	音 3聴取・	,旋律〕	③行動観察

6 本時の指導(8時間目/全8時間)

(1) 目標

フルートとクラリネットの音色のよさや旋律の特徴を感じ取って聴く。

(2) 展開

CB)\\ \dar{\} \= \-\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\	16)4 1 - Frite 6 (A Tr fr)
段	学習活動	指導上の留意点(◇評価)
階		
導	1 常時活動 ICT (共有化)	・「茶色の小びん」を演奏する。
入		児童の前時のふりかえりを活用し、称揚する
7		ことで意欲につなげる。
分	2 課題把握	
	フルートとクラリネットの音色	色のよさや曲の特ちょうを感じ取ろう。
	3 問題解決	・それぞれの楽器の練習場面を視聴し、楽器の奏法
展	(1)フルート・クラリネットの練習場面	や, 取り組む姿について感じ取ったことを話し合
開	を視聴する。	う。
	ICT(共有化・焦点化)	・タンギングや呼吸が大切なのは、リコーダーと同
30	(2) 全体交流	じだ。
分	ICT(共有化)	・もっと息を多く使うようだ。
		・指使いが難しそうだ。
		・自分なら、この楽器に取り組んでみたい。
	(3) 曲全体を通して鑑賞する。	
	提示:図形楽譜	- ・フルートの音色は,しっとりしている。優しい。
	ICT (視覚化·共有化)	旋律の動きは、ゆっくり。なめらか。
		・クラリネットの音色は, あたたかい。
	(4)曲を聴きながら動作化する。	旋律の動きはすばやく、陽気な感じがする。
	() , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	「メヌエット」: 3拍子の舞曲
		「クラリネットポルカ」: 2 拍子の舞曲
		手拍子やステップで動作化する。
終	4 まとめ	1 1H 1 (7:7 / / \2011 U / V0
	14 acw	
末	フルートとクラリネット それ	いぞれの音色のよさがある。
8	「メヌエット」「クラリネット	ポルカ」は,それぞれの楽器の
分	音の特ちょうを生かした曲。	
	5 演奏場面を動画で視聴する。	
	ICT (視覚化)	

(3) 板書及び電子黒板等の計画

ア 板書

フルートとクラリネットの音色のよさや曲の特ちょうを感じ取ろう。

題名 「メヌエット」 「クラリネットポルカ」

フルートとクラリネット それぞれの音色のよさがある。 「メヌエット」「クラリネットポルカ」は、それぞれの楽器の 音の特ちょうを生かした曲。

イ 電子黒板

- ①「茶色の小びん」楽譜
- ②フルート・クラリネット練習場面の動画
- ③「メヌエット」「クラリネットポルカ」の図形楽譜
- ④「メヌエット」「クラリネットポルカ」演奏動画